

令和6年9月2日(月)

魚沼きこえの教室だより

令和6年度 第4号

長岡聾学校小出分教室 (小出特別支援学校内)

きこえの教室 担当:小池 豊

〒946-0035 魚沼市十日町 1738-2

Tel:025-792-5462 fax:025-792-5465

Email:koike.yutaka@nein.ed.jp

夏休みが終わり、2学期がスタートしました。日頃より小学校や中学校で学んでいる難聴児童生徒へのご理解とご支援、誠にありがとうございます。今回は、「難聴者」ではなく、私たち「聴者の行動様式」について、考えてみたいと思います。



「聞きながらメモをとる」という行動について

聞こえることが当たり前の場合、聴者としての振る舞いは自然に行われているものであり、あまり意識されることはありません。例えば「説明を聞きながらメモをとる」あるいは「タブレットの操作をしながら説明をする」という場合、2つの行動が同時処理されています。しかし、難聴者にとっては、この同時処理は大変難しいことです。想像してみてください。聞こえにくい子どもたちは、説明を聞き漏らすまいと、先生の声だけでなく目線や表情などに注目しながら懸命に聞いています。したがって、メモをしたい大切なキーワードがあったとしても、目をそらした途端に聞き漏らしてしまうかもしれません。同じように、タブレットを電子黒板に繋げながら急に始まった先生の指示は、聞く構えのできていない難聴児に届くことはありません。つまり、「～しながら～する」という聴者にとっては当たり前で効率のよい行為であっても、難聴者にとってはアクセスしにくい状況を生み出しているのです。そこで、あらためてお願いしたい合理的配慮は、次のようなものです。

ポイント

合理的配慮① (×)「～しながら～する」 (○)説明と作業を分ける

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ・板書しながら、説明をしない。 | ⇒板書が終わった後、説明を始める。 |
| ・移動しながらの指示等は、少なく。 | ⇒静止してから、難聴児に正対して話す。 |
| ・機器の操作をしながら、指示を出さない。 | ⇒機器の準備を終えてから、指示を出す。 |
| ・ノートを書いている途中で話し掛けない。 | ⇒ノートを書き終わってから、視線を合わせ話す。 |

9月になっても 補聴器・人工内耳の手入れをしっかりと！

昨年の猛暑に比べるとやや気温も低く過ごしやすいですが、日中はまだ気温も高く、真夏並みになる日もあります。夏を乗り切った補聴器や人工内耳も、手入れを怠っていると故障してしまうことがあります。補聴器や人工内耳にとって、9月もまだまだ過酷な季節と言えます。例えば、補聴器の故障で一番多いのは、汗が原因と思われる電池室の錆(さび)です。対策としては、「こまめに汗を拭き取る」ことが一番です。



補聴器や人工内耳を外したら、乾いた布などで汗を拭くのはもちろん、耳の周りもよく拭くことが大切です。

難聴児にとっては、自分の補聴器や人工内耳の手入れや管理ができるようになることは、将来を見据えた課題の1つです。それぞれの発達段階に合わせて求められることには差がありますが、「補聴器や人工内耳を丁寧に扱うこと」や「汗や水などは、きちんと拭き取る」などは、どの年齢であってもしなければならないことです。そうした気持ちを育てるため、体育や休み時間、校外学習など身体を動かした後に、「汗を拭こうね!」と、ひと声かけていただけるとありがたいです。どうぞよろしくお願いたします。